

京都に生きた陶芸家にして彫刻家、初の回顧展



# 清水九兵衛

KIYOMIZU Kyubey / Rokubey VII Retrospective

# 六兵衛

生誕100年

2022年4月13日(水)―7月3日(日)

{休館日} 5月2日[月]、6月6日[月] ※休室日 5月23日[月]、6月20日[月]

{開館時間} 10:00-18:00(金・土曜日は20:00まで) ※入場受付は閉館の30分前まで

{主催} 千葉市美術館、京都国立近代美術館 {協力} 株式会社キヨロク

{観覧料} 一般=1,200円(960円) 大学生=700円(560円) 小・中学生、高校生=無料

※障害者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料 ※( )内は前売り、市内にお住まいの65歳以上の方の料金 ※前売り券は、ミュージアムショップまたはコーンチケット(Lコード:32529)、セブンイレブン(セブンチケット)、千葉都市モノレール「千葉みなと駅」「千葉駅」「都賀駅」「千城台駅」の窓口にて4月12日まで販売(4月13日以降は当日券販売)

○リピーター割引: チケット(有料)半券のご提示で、2回目以降の観覧料半額 ○ナイトミュージアム割引: 金・土曜日の18:00以降は観覧料半額 ○本展チケットで5階常設展示室「千葉市美術館コレクション選」もご覧いただけます ※割引の併用はできません

※館内にて新型コロナウイルス感染症大防止対策を行っております。体調のすぐれない方の来館はご遠慮ください。観覧チケット、セブンチケット、子供・学生割引の併用はご遠慮ください。※内容やイベントが変更になる場合があります。最新状況はホームページをご確認ください。

千葉市美術館  
Chiba City Museum of Art

〒260-0013 千葉県中央区中央3-10-8

TEL=043-221-2311(FAX) <https://www.ccma-net.jp>

{CORRESPOND(担当No.6)} 2001年 千葉市美術館蔵 《歳時春風熱茶器》2005年 個人蔵 撮影=小平忠生

会 期 2022年4月13日(水)―7月3日(日)

開館時間 10:00―18:00(金・土曜日は20:00まで) ※入場受付は閉館の30分前まで

休 館 日 5月2日(月)、6月6日(月) ※休室日 5月23日(月)、6月20日(月)

観 覧 料 一般1,200円(960円)、大学生700円(560円)、小・中学生、高校生無料

※障害者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料 ※( )内は前売り、市内在住65歳以上の方の料金

※前売券は千葉市美術館ミュージアムショップ、ローソンチケット(Lコード:32529)、セブンイレブン(セブンチケット)、千葉都市モノレール「千葉みなと駅」「千葉駅」「都賀駅」「千城台駅」の窓口にて4月12日まで販売(4月13日以降は当日券販売)。

◎リピーター割引: チケット(有料)半券のご提示で、2回目以降の観覧料半額

◎ナイトミュージアム割引: 金・土曜日の18:00以降は観覧料半額

◎本展チケットで5階常設展示室「千葉市美術館コレクション選」もご覧いただけます。

主 催 千葉市美術館、京都国立近代美術館

協 力 株式会社キヨロク

※内容やイベントが変更となる場合がございます。最新状況はホームページをご確認ください。

## 概要

生誕100年を記念して、彫刻と陶芸という二つの表現領域で活躍した清水九兵衛／六兵衛(1922-2006)の初めてとなる回顧展を開催します。

清水は、塚本竹十郎の三男として1922年に名古屋に生まれました。幼名は廣(後に洋、裕詞)。名古屋高等工業学校建築科を繰り上げで卒業後、招集され沖縄での戦いに赴きます。復員後、東京美術学校付属工芸技術講習所ならびに東京藝術大学工芸科鋳金部で学び、1951年に京焼を代表する名家である六代清水六兵衛の養嗣子となり陶芸の道に進みました。1950年代から60年代にかけては、日展に出品して特選を連続して受賞するなど陶芸家としての高い評価を得る一方でクラフト作品の制作にも熱中します。しかし陶芸家としての評価が高まるなかで、「もの」と周囲の空間に対する関心が深まり、1966年に初めて彫刻作品を発表。1968年に「九兵衛」を名乗り、陶芸制作から離れ、アルミニウムを主な素材とする彫刻家として精力的に活動していきます。その作品、構造と素材、空間などとの親和(アフィニティ)を追求したもので、日本各地に設置された彫刻からもその創作意識を窺うことができます。

清水は、1980年の六代六兵衛の急逝を受けて七代六兵衛を襲名しましたが、陶芸作品による襲名披露展は1987年まで待たなくてはなりません。七代六兵衛としての作品は、土という素材の性質や焼成によるゆがみを意図的に用いたものであり、そこで得られた経験を、陶とアルミを組み合わせた作品や最晩年の和紙やクリスタルガラスによる作品群に生かし、九兵衛／六兵衛としての新たな造形を示しました。

本展では、清水の九兵衛以前の陶芸作品、九兵衛としての彫刻作品、七代六兵衛としての陶芸作品のほか、清水自身が撮影した写真作品、彫刻制作のための図面やマケットなど、約180件の作品および関連資料を通じて、立体造形作家としての生涯を回顧します。

※前期 4月13日(水)―5月22日(日)、後期 5月24日(火)―7月3日(日)

会期中、前後期で陶芸・彫刻作品、野外彫刻関連資料の一部展示替えを行います。

千葉市美術館  
Chiba City Museum of Art



〒260-0013 千葉県千葉市中央区中央3-10-8  
tel. 043-221-2311 <https://www.ccma-net.jp>

## ■ 本展の見どころ

### ○陶芸、彫刻の分野で活躍した清水九兵衛／七代清水六兵衛、国内初の回顧展

清水九兵衛そして七代清水六兵衛は彫刻家と陶芸家の二つの顔をもち、建築や陶芸、クラフトデザイン、彫刻といった多領域で活動しました。

本展は、彫刻46点、陶芸74点と、制作過程の図面、マケット（模型）、写真作品など関連資料約61点による約180件で半世紀にわたる多様な活動を回顧する初めての展覧会です。

### ○京都を代表する京焼の名家としての七代清水六兵衛

1951年に清水家の養嗣子となった清水九兵衛／六兵衛は、それ以前に学んでいた鋳金の造形意識を生かした清新な作風により、1950年代から60年代半ばにかけて日展のホープとして活躍していました。しかしその後、陶土の質感への違和感から60年代末に彫刻制作の道に進むことを決心した際、多くをみずから手で壊しました。今回は、展覧会を準備する中で新たに発見された資料も含め、現存する当時の代表作品を可能な限り集めた貴重な機会となります。



《方容(方容條文花器)》1958年  
個人蔵 第1回日展・特選

### ○戦後彫刻を牽引する存在としての清水九兵衛

1966年に初めて発表した真鍮の作品から、代名詞ともなった1970年代のアルミニウムによる彫刻まで、一貫して金属による抽象彫刻を手掛けた清水九兵衛。1966年の「色彩と空間」展をはじめ「彫刻の森美術館大賞展」、「神戸須磨離宮公園現代彫刻展」、シドニービエンナーレなどに出品するなど国内外で彫刻作品を発表しました。室内の代表的な作品は大作が多く、また全国の主要な美術館や自治体が所蔵しており、これまで回顧展を開催することは困難であると考えられていました。本展では、彫刻家としての初発表作品から最晩年の大型彫刻、資料などを展示、抽象彫刻の第一人者としての清水九兵衛を知る機会となります。



《AFFINITY D》1974年 神戸須磨離宮公園  
第4回現代彫刻展・神戸市教育委員会賞  
神戸市

### ○都市を彩るパブリック・アートを制作資料等とともに紹介

清水九兵衛の抽象彫刻は活動の拠点となった京都を中心とした関西だけでなく、首都圏をはじめ全国に設置され、朱色を基調とした三井住友海上火災保険株式会社本店やJR京都駅構内など、都市を彩る多くのパブリック・アート（野外彫刻）でも知られています。展覧会では、京都の街並みにインスピレーションを得た抽象彫刻の数々をスライドショーや図面、マケット（模型）とともに紹介します。



《朱甲舞》1997年 JR京都駅  
画像提供:京都駅ビル開発株式会社

### ○千葉市とも関係の深い作家

清水九兵衛は、1942年に徴兵され、沖縄戦の最前線に送られましたが奇跡的に生還しました。終戦後は1946年に千葉市小中台町に設置された第一復員局留守業務局に臨時嘱託員として勤務し、その際現在の稲毛区園生町に下宿するなど、千葉市と関係のある作家でもあります。

## ■ 略歴



1922年 愛知県大久手町(現名古屋)に生まれる  
1940年 旧制名古屋高等工業学校で建築を学ぶ  
1942年 臨時徴兵  
1947年 東京美術学校工芸技術講習所に入学  
1949年 東京美術学校工芸科鋳金部に入学  
1951年 清水家に養子入  
1966年 五東衛の名で、初めて彫刻を発表

1968年 清水九兵衛を名乗る  
1969年 海外研修のため渡欧、イタリアを中心に住宅の屋根や窓を調査する  
1980年 七代清水六兵衛襲名  
2000年 六兵衛の名を長男・柗博に譲る  
2006年 7月21日死去、享年84歳

## ■ 「生誕100年 清水九兵衛／六兵衛」展さや堂ホール関連展示

### 前期「清水宏章 朱」

京都を中心に活躍する陶芸家・清水宏章による関東での初個展。辰砂釉を使用した赤い器物の最新作を祖父・清水九兵衛の彫刻作品とともに展観します。

4月13日(水)～5月19日(木)

休館日:5月2日(月)／観覧料:無料／会場:1階さや堂ホール

### 後期「インクルーシブ・サイト—陶表現の現在」

陶を主な素材とする彫刻家4人によるグループ展。さや堂ホールの広大な空間の中で、清水九兵衛が追求した「アフィニティ(親和)」の現代的意義に迫ります。

出品作家:藤原彩人、北林加奈子、桑名紗衣子、土屋裕介

5月27日(金)～7月3日(日)

休館日:6月6日(月)／観覧料:無料／会場:1階さや堂ホール

## ■ 展覧会関連イベント

内容やイベントが変更になる場合があります。詳細は美術館ホームページをご確認ください。

★のイベントは事前申込制につき、詳細、申込方法を美術館ホームページでご確認ください。

### ★対談「九兵衛さんが住んでいた街—京都・五条坂今昔—」(事前申込制)

出演:八代清水六兵衛(陶芸家)、鷺珠江(河井寛次郎記念館学芸員、河井寛次郎令孫)

4月29日(金・祝)14:00～(13:30開場予定)／11階講堂にて／定員80名／聴講無料

### ■トークイベント「戦後抽象彫刻と清水九兵衛」

出演:石崎尚(愛知県美術館学芸員)、菊川亜騎(神奈川県立近代美術館学芸員)、田村麗恵(東京都庭園美術館学芸員)、森啓輔(当館学芸員)

5月28日(土) 14:00～(13:30開場予定)／11階講堂にて／先着80名(当日12:00より1階にて整理券配布)／聴講無料

### ■さや堂ホール関連展示アーティストトーク

出演:北林加奈子(彫刻家)、桑名紗衣子(彫刻家)、土屋裕介(彫刻家)、藤原彩人(彫刻家)、森啓輔(当館学芸員)

6月25日(土)14:00～(13:30開場予定)／11階講堂にて／先着80名(当日12:00より1階にて整理券配布)／聴講無料

### ■陶器市2022@千葉市美術館

京都や栃木(益子町)、千葉ほかで活躍する作家による、日常で使える茶碗やお皿などの陶器やアクセサリ類を販売します。

5月22日(日)11:00～16:00／1階さや堂ホールにて／入場無料

※混雑時には入場規制を行う場合があります。

### ■市民美術講座「清水九兵衛の生涯1:やきものの街の彫刻家」

講師:藁科英也(当館上席学芸員)

4月23日(土) 14:00～(13:30開場予定)／11階講堂にて／先着80名(当日12:00より1階にて整理券配布)／聴講無料

### ■市民美術講座「清水九兵衛の生涯2:九兵衛と七代六兵衛」

講師:藁科英也(当館上席学芸員)

5月14日(土) 14:00～(13:30開場予定)／11階講堂にて／先着80名(当日12:00より1階にて整理券配布)／聴講無料

### ■市民美術講座「清水九兵衛が追い求めた彫刻」

講師:森啓輔(当館学芸員)

6月11日(土) 14:00～(13:30開場予定)／11階講堂にて／先着80名(当日12:00より1階にて整理券配布)／聴講無料

### ★さや堂ホール関連展示ワークショップ「石膏で抽象彫刻を作ろう さや堂ホールを型取る」(事前申込制)

講師:桑名紗衣子(彫刻家)

6月5日(日) 14:00～(13:30開場予定)／4階市民アトリエにて／定員15名／対象:高校生以上／要参加費

### ★託児サービスデー(事前申込制)

5月22日(日)13:00-16:00

## ■ 記者レクチャー・内覧会

一般公開に先駆けて報道関係の皆様を対象に、記者レクチャーおよび内覧会を行います。展覧会の見どころを担当学芸員よりご説明し、その後展示室をご覧ください。また、当日は八代清水六兵衛氏と清水宏章氏が来場されます。

4月12日(火) 15:00-17:00(14:30開場)／8階展示室にて

参加ご希望の方は、同封の申込書に必要事項をご記入の上、FAX またはメールにてご連絡ください。

## ■ 同時開催

### 常設展「千葉市美術館コレクション選」

5階常設展示室 [休室日]第1月曜日 [観覧料]一般300円 大学生220円(企画展ご観覧の方は無料)

### 「つくりかけラボ07 植本一子|あの日のことおぼえてる?」

4月13日(水)ー7月3日(日) 4階子どもアトリエ [休室日]第1月曜日 [観覧料]無料

## ■ 次回展予告

2022年7月16日(土)ー9月4日(日) 「とある美術館の夏休み」

2022年7月13日(水)ー10月2日(日) 「つくりかけラボ08 堀由樹子|えのぐの森」

※展示やイベントの内容などが変更になる場合があります。最新の状況はホームページをご確認ください。

※館内にて新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行っております。

・体調のすぐれない方の来館はご遠慮ください。・咳エチケット、マスク着用、手洗い・手指の消毒の徹底にご協力ください。

## ■ 広報用画像一覧

展覧会広報用として作品画像をご用意しております。ぜひ、本展をご紹介しますようお願いいたします。ご紹介いただける場合は、別紙の申込書に必要事項をご記入の上、FAXにてご連絡ください。画像の使用は1回限りとし、展覧会紹介の目的にのみご使用ください。



1 《CORRESPOND》2000年 岐阜県現代陶芸美術館蔵



2 《CORRESPOND(刻印No.6)》2001年 千葉市美術館蔵(個人寄託)



3 《FIGURE 16》1988年 千葉市美術館蔵



4 《MASK II》1977年 千葉市美術館蔵(一般財団法人草月会寄託)



5 《載土容黒釉茶盃》2005年 個人蔵



6 《方容(方容條文花器)》1958年 個人蔵



7 《ユニット・オブジェ(一輪挿)》1956年 個人蔵